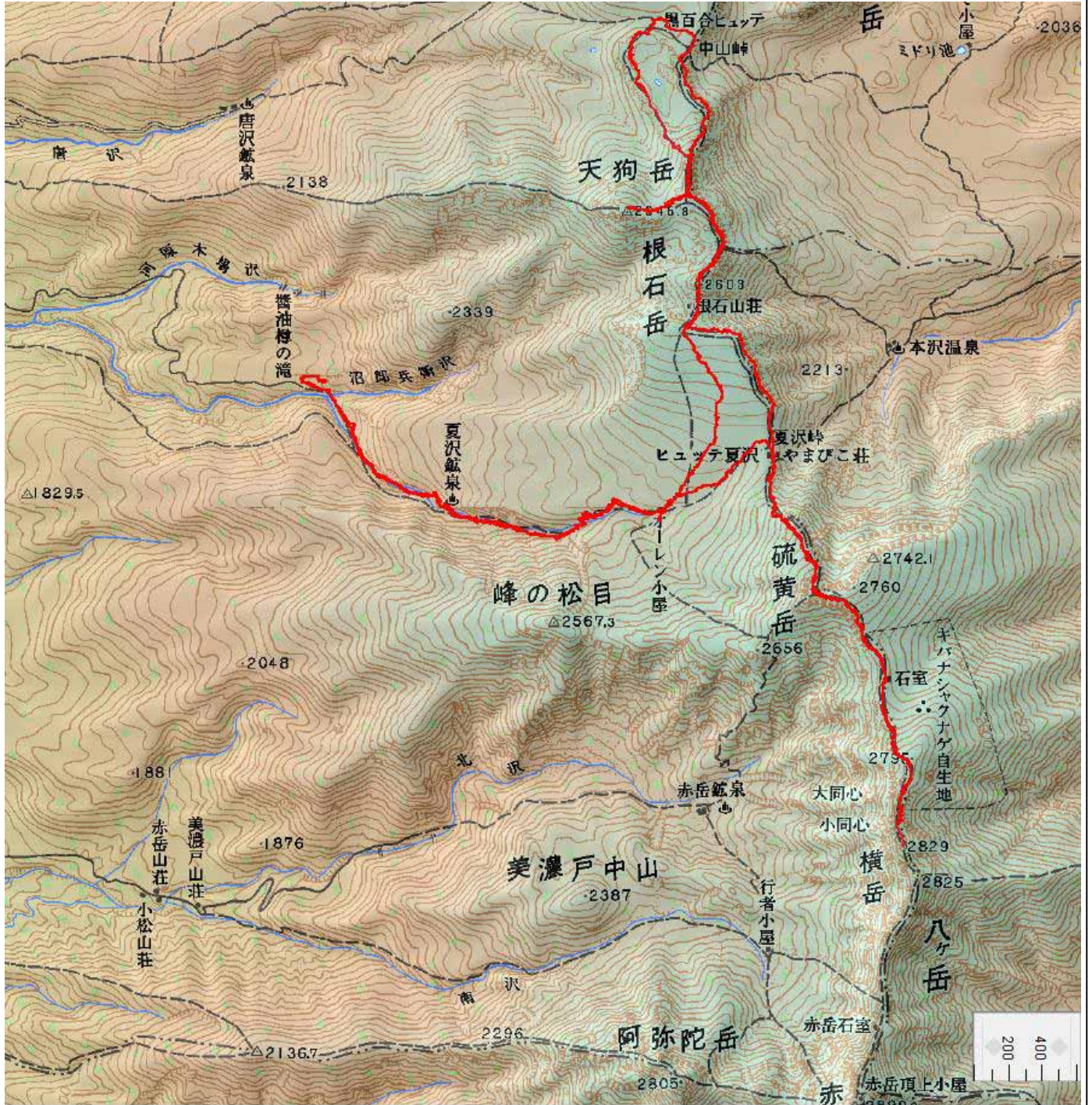


デンソー山岳部 2012年 春山合宿報告書

山城 八ヶ岳 硫黄岳、横岳、天狗岳

日程 平成24年 4月28日～5月 1日(予備日1日)

メンバー	吉田 明和 (CL)	神戸 和広 (SL)	小田 修三 (会計・SL)
	亀山 誠 (渉外)	町田 修 (気象)	植木 毅 (装備)
	山本 浩樹 (食料)	津田 廣一 (記録)	



- 第1日目 (4/28) 桜平駐車場－夏沢鉱泉－オーレン小屋
- 第2日目 (4/29) オーレン小屋－夏沢峠－硫黄岳－横岳－硫黄岳－天狗岳－黒百合ヒュッテ
- 第3日目 (4/30) 黒百合ヒュッテ－東天狗岳－オーレン小屋－桜平駐車場



第一日目 4/28(土) 晴れ 歩行=1H 45M
 桜平駐車場発(11:30) - 夏沢鉱泉(12:00) - オーレン小屋(13:15)

雲一つない快晴のもと、春山合宿はスタート♪予定より少し早く桜平の駐車場を出発。本日の行動は短いこともあり、皆の足取りは軽い。雪は少なめで、川沿いを歩きながら、夏沢鉱泉に到着、一本。夏沢鉱泉からは、雪がやや多くなり、緩みがちで、時折踏み抜くこともあった。樹林の間からオーレン小屋が見え、本日の行動は終了。皆でテントを張り、乾杯！山本サンが一人で材料を担ぎあげた夕飯の鍋は格別だった。(記：植木)



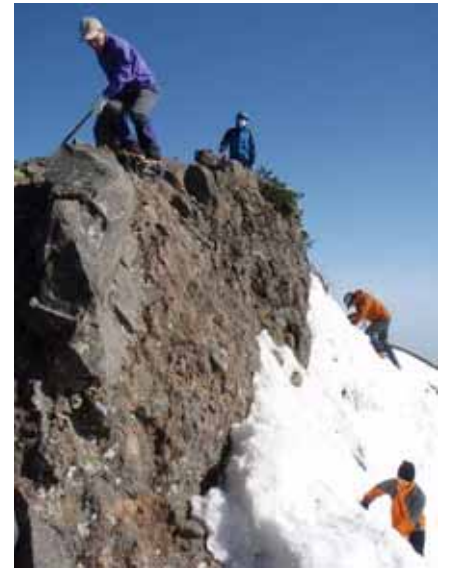
第二日目 4/29(日) 晴れ 歩行=9H 50M
 オーレン小屋(5:00) - 夏沢峠(5:32) - 硫黄岳(6:53) - 横岳(8:30) - 硫黄岳(10:00) -
 夏沢峠(10:40) - 根石岳(12:04) - 西天狗岳(13:10) - 東天狗岳(13:43) - 黒百合ヒュッテ(14:50)



朝3:00に起床。二月に八ヶ岳を訪れた時と比較すると冷え込みも大したことなかった。昨晚の鍋のスープで拵えたうどんでお腹を満たし出発。まずは夏沢峠へ向けゆっくりとスタートした。夏沢峠で必要最低限以外の荷物を降ろし、身軽になって硫黄岳、横岳を目指した。樹林帯でアイゼンを装着したものの、樹林帯を抜けてしまうと、雪は風で吹き飛ばされてしまったようで、まばらに残っている程度であった。硫黄岳でアイ

ゼンをはずし横岳に向かう。天候はよく、横岳に向かう途中で遠くに富士山を望むことができた。

横岳の最後の登りでザックを置いていくことをリーダーが提案。ふと見上げるとそこから横岳までは岩場と急峻な登りになっており、確かに荷物を置いていったほうが登ることに集中できる気がした。神戸さんはザイルをもっていたのでそのまま荷物ごと上がっていったが、我々はピッケル、スリング、カラビナだけを持って横岳を目指す。下を見ると足がすくみそうだったのでなるべく眼下を気にしないように一步一步慎重に歩を進めていった。横岳頂上からも富士山を望むことができた。天候が良く、気持ちいい。横岳からの下りでは亀山さんと町田さんがザイルを張って、各人プルージックで下っていく。やはりザイルがあると安心感が違う。無事に横岳、硫黄岳を往復し夏沢峠まで戻ってきた。そこで荷物を回収し、そこからはフル装備で今度は黒百合ヒュッテを目指す。さすがに荷物があると若干ペースダウンした。淡々と根石岳まで歩いていく。根石岳で一本とっていると山本さんが急に驚いた声を上げた。どうやら、水筒の栓の閉め方が甘かったらしく、ザックの中で飲料水1Lほどが漏れ出していたようだ。テン場について後分かったが、ザックの中でシュラフなども濡れてしまっていたようだ。春山だったので若干の支障ですんだが、これが冬山だったら事態はより深刻だったであろう。他人事ではなく、自分も気をつけなければと思った。



横岳へ向かう難所

東天狗岳について、そこからはアイゼン、ピッケルのみで西天狗岳を目指した。西天狗岳で記念撮影を行い、一路今日のテン場である黒百合ヒュッテを目指した。黒百合ヒュッテには、予想外に女性客や年配の客が多くて驚いた。さすが、GWに訪れたい人気スポットだなと妙に納得してしまった。(記：小田)



西天狗にて記念撮影

第三日目 4/30(月) 曇り 歩行=3H 37M

起床(4:00) — 黒百合ヒュッテ発(5:55) — 東天狗岳(7:28) — 根石岳(7:55) — 箕冠山分岐(8:07) — オーレン小屋(8:36) — 夏沢鉱泉(9:03) — 桜平(9:32) — 縄文の湯(10:40~11:30) [入浴] — 諏訪湖SA(12:00~12:30) [食事] — 刈谷(15:00)

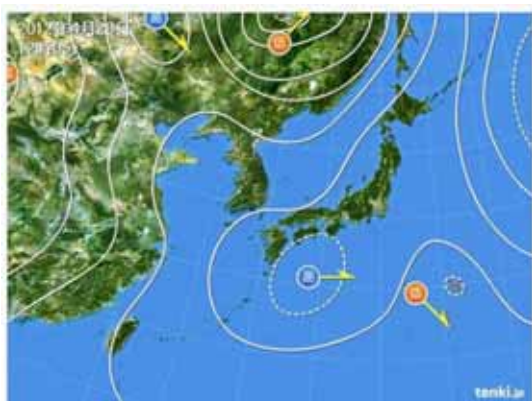
朝からあいにくの曇り空、黒百合ヒュッテの温度計はマイナス5℃を指していたが、あまり寒さを感じない朝となった。起床は遅めの4時、チキンラーメンと昨夜の残りご飯を平らげ、下山に向けて準備をする。当初の予定では、高見石小屋から白駒池を回って洪の湯へ下山予定だったが、ルートを変え、桜平を目指す事となった。黒百合ヒュッテから東天狗までの岩場を一気に越え、頂上手前で一本。最後の登りとなる根石岳から箕冠山分岐まで、展望を惜しみながら進み、分岐点で一本。ここからは樹林帯をテンポ良く下るが、途中、腐った雪に足を取られる事もしばしば。夏沢鉱泉で最後の一本、その後は恒例?となった駐車場までのランニング...なぜか楽しい。一気に桜平駐車場へ着いた。ここで後半組の3名と別れ、無事を祈りつつ、縄文の湯(400円と安価)でゆっくりと汗を流した。諏訪湖SAで昼食を取り、帰路につく。天候に恵まれた春山合宿を無事終えた。(記：山本)



<気象報告>

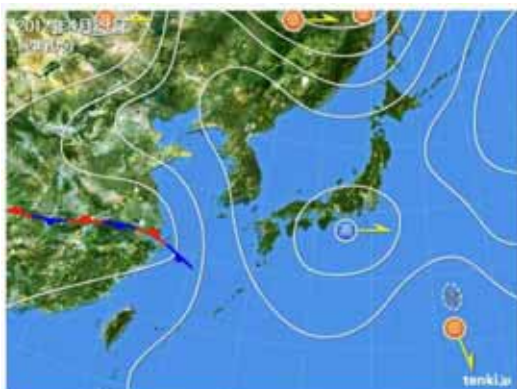
(記：町田)

4月28日



高気圧が四国の南海上に中心を移し広く日本列島を覆った。安定した晴天になる。強い日差し、カラッとした陽気、絶好の登山日和となる。タイトスを脱いでシャツ一枚でオーレン小屋まで2P、一汗かく。

4月29日



本州付近は高気圧に覆われて、安定した文句なしの晴天になる。日差しが強く空気は乾燥し、カラッとした初夏の陽気。29日は行動時間が長いので紫外線対策が必要。メンバーそれぞれ日焼け止めクリームやタオルを巻き、サングラスを付けていた。横岳山頂からは360度の山々をしっかりと確認できた。

4月30日



西から気圧の谷が近づき、湿った空気が入り込む。雲が多くなり暑さは和らぐ。再度、天狗岳を登り返して根石のコルを超えてオーレン小屋に下るルートだが、穏やかな風のないコルを歩きながら、今年の蝶～常念岳の強風を思い出し、風のない山歩きのありがたさを感じる。

<リーダー所見>

今回の春山合宿は、8人中3人が新人で新鮮な山行となった。3人にとっては初めての雪山合宿となったが、行動中のアイゼン、ピッケルワークはそつ無くこなし、休憩中のアイゼン脱着や行動食の摂り方などテキパキとこなしていた。幕営地でのテントの設営と撤収、食事の準備と片づけも積極的に行っていた。山行全体については、八ヶ岳の登りやすいルートを選定したことと、天候は概ね良好、無風であったため安全に過ごすことができた。2日目の横岳山頂直下では、亀山さんと町田さんのロープワーク指導を受け、新人のみならず良い経験となった。

ここ数年は雪山合宿に参加する新人が少ない傾向であったが、今後は、今回の3人に加えて今回参加できなかった新人も雪山技術の向上に努め、少しずつ春・冬山合宿の難度を上げて、雪山合宿と一緒に楽しんでいきたいと思う。(吉田)

<サブリーダー所見>

2月の硫黄岳山行ではなんて寒い所だと思っていたが、今回は天候に恵まれ拍子抜けした。代わりに360度広がる展望を満喫できてよかった。SLとしては、メンバー全体を見ての行動がうまくできず反省しきりである。具体的には、歩き出しのペース配分やアイゼンをはくタイミングを自分から切り出せなかった、岩場で道外したのに気づいても直進したり等である。また今後はロープ確保できるよう技術を身につけたい。(神戸)

<装備所見&感想>

今回新たに購入した電池ランタンは、これまで所有のものより明るく Good。今後も活用していただきたい。二日目、水筒の栓が緩み、シュラフ等が濡れたメンバがいた。今回の山行は比較的温暖であったが、一歩間違えば命取り。防水対策はしっかりとしたい。

入部後初の本格的な山行でしたが、好天にも恵まれ、楽しむことができました。メンバの方々には随所でお世話になり、ありがとうございました。体力不足が今後の課題です。今後ともご指導ご鞭撻よろしくをお願いします。(植木)

<食糧所見>

当初、トマト鍋を計画していたが、鍋の季節も終わりに近づき、トマト鍋の素が販売終了。とんこつ鍋とキムチ鍋の2本立てに変更となったが、2種類の味を楽しむ事が出来、なかなか好評であった。2日目の朝は、鍋の残り汁を利用してのうどんを計画していたが、思いのほか汁が少なく、味の薄いうどんとなってしまった。別途、うどんのつゆを用意するべきであったと反省。

コンデンスミルクに蜂蜜を入れる事で、疲労回復と共に新しい味を楽しむ事ができた。(山本)

1日目 夕食 とんこつ鍋、キムチ鍋、ご飯

2日目 朝食 うどん(生麺) / 夕食 レトルトカレー、ご飯、海藻サラダ

3日目 朝食 チキンラーメン

嗜好品：カフェオレ、お茶、蜂蜜、コーヒー、コンデンスミルク、おつまみ

(参考) 鍋材料 (大コッヘル2個で2種類の鍋)

豚バラ肉(900g)、白菜(1/4)、乾燥しいたけ、大根(1/2)、人参(2本)、しめじ、乾燥高野豆腐(2丁分)、ニラ、ネギ、とんこつ鍋の素、キムチ鍋の素

<会計報告>

(小田)

収入		
収入	会費(10,000X8名)	80,000
	金子さん 御志	3,000
収入合計		83,000

金子さんありがとうございました

支出	
支出	ランブ 1,580
	食料 11,722
	テント場(オーレン) 8,000
	テント場(黒百合) 8,000
	交通費(往路) 16,098
	交通費(復路)5人分 8,500
	返金3000×5名 15,000
	返金4700×3名 14,100
支出計 83,000	

<春合宿雑感>

久しぶりの好天予想の山行に期待が膨らむ。7時ジャストに全員集合し、いざ桜平へ。予定よりも早く桜平へ到着。ひんやりとして気持ちいい。どっこいしょとリュックを担いで、歩き出すとすぐに暑くなってくる。夏沢鉱泉で、一本。上着を脱ぐ。オーレン小屋まで、順調に進み、テントを設営。ビールと豪華な鍋を大いに楽しんだ。鍋の食材を、一人で担ぎ上げてくれた山本君に感謝し初日終了。

快晴の下、5時に出発。今日が、硫黄岳、横岳、引き返して天狗へのハイライトだ。まずは夏沢峠を目指す。1ピッチで夏沢峠へ。不要な荷をデポして軽身で硫黄へ向かう。アイゼンなしで雪のある所とない所を進んでいる内に、いつの間にか雪の急斜面に突入し、時々凍っている。「アイゼン装着！」の声がかかるが、足場が悪い。平坦部まで降りるのも憚られる。装着に手間取っていると、「吹雪いていたら凍傷だぞ」と、亀さんの声。もう一度、ピッケルで足場を作り直してやっと装着（急斜面でのアイゼン装着は課題だ）。急斜面を登り、硫黄の頂上で一本。この先、雪もなくアイゼンを外す。硫黄岳山荘を過ぎ、台座ノ頭付近の平坦部まで登り、再びアイゼン装着。この先、頂上まで厳しいルートが続く。途端に一番の難所に出くわした。雪面が切れ落ちて、下が見えない。「ザイル、出すか？」の声がかかるが、トップの神戸君が柔らかい雪の中にピッケルを深く突き刺して、一歩、一歩と慎重に降りて行く。5m位降りてから、横へトラバースして、登り直す。「慌てないで慎重に行けよ」の声を確認し、意を決してトップに続く。垂直に近い感じだが、何とか降りられそうだ。雪が柔らかく、ピッケルがズボッと縦に根元まで刺さる。これで万一の時に確保できるか不安を感じるが、滑らなければ大丈夫だ。右手のピッケルを深く突き刺し、左手も雪面に突き刺して、トップが作った足場に、慎重に足を降ろしていく。この動作を繰り返し、降りきっては、横へトラバースを終え、もう大丈夫。安全な所へ登りきって、後続が続くのを待つ。ここを通過すると、急勾配の岩場が続いているが、雪も少なく恐怖はさほど感じない。ハシゴも慎重に通過し、岩場の道を慎重に選んで進むと横岳奥ノ院（頂上）に着いた。全員と握手を交わし、360度のパノラマを楽しむ。記念写真を撮っては、早々に下山開始。下降という事で、念の為にザイルを出してもらい、一人一人、ハシゴの所まで降りる。間隔をあけて、慎重に下っていくと、先程の難所で年配のご夫婦が躊躇していた。「どうぞ」という事で、先に通過させてもらった。トップのトラバース終了時点で後に続くと、いつも温厚な神戸君が「1人づつ」と、えらく剣幕だ。アイゼンを装着した所で、全員の集合を待ってアイゼンを外して硫黄岳・夏沢峠へ。硫黄岳の登りで苦戦した斜面も雪が腐り、どんどん歩く。夏沢峠でデポした荷をパッキングし直し、トップを小田君へ交代して天狗へ向かう。荷が重く感じられるが、以前にも登っており、気分的には楽だ。箕冠山を過ぎ、根石の科尔へ出ると、2年前に強風で撤退した事が懐かしく思い出される。今日は風もなく、何ら問題なし。東天狗で荷をデポし、軽身で西天狗へ。皆で登頂を喜ぶ。再び東天狗へ向かうが、途中から急に疲れを感じ出した。荷を再び担いで歩き出すと、徐々に足に力が入らなくなってきた。シャリバテか？バランスを崩し雪を踏み抜いては、更に体力を消耗する。金平糖を口に入れるが、吐き気を感じる。黒百合フェットまで1hぐらいと思うが、とうとう、一休みを申し出る。共同装備のフライとポールを亀さんに預け、吉田リーダーに付き添ってもらって臨時の一本。腰を降ろし、食べれそうなものを口に入れ、5分程度休んだ。ゆっくりのペースで歩き出すと、緩斜面でもバランスを崩して尻セード。ほうほうの体でテン場へ辿りついた。夕食も食べきれずに嘔吐してしまい、皆に心配をかけてしまいました。申し訳ない。

昨夜、コース変更を検討し、桜平へ降りるコースを採択。私の方は、昨日の疲れの回復具合を気にかけてつつも、歩き出しからの急斜面を、アイゼンを装着してサクサクッと気持ちよく直登。登りきると雪面と雪のない岩場が交互にある状況。アイゼンを外して、東天狗までの我慢の登り。頂上直下の分岐で一本。薄曇りの中、東天狗、根石岳を一気に通過して箕冠山へ。更に雪を踏み抜かない様に、オーレン小屋まで下り、夏沢鉱泉を過ぎ、林道を歩いて桜平駐車場へ無事に着いた。3日間とも、雨に降られる事もなく、体調面では疲労はあったが、無事に山行を終える事が出来た。メンバーに感謝です。